



ホロスの裏山につくられた手造りの足湯場。入院患者さん等がお散歩がてらに来場し、紅葉を眺めながら入浴される。コロナ禍のひとつとき。



ホロスを訪れリフレッシュ。眼下の紅葉や足湯場を見下ろし、上部にはメンバーが描き貯めたパステル画シリーズが展示。



紅葉シーズン。足湯場に展示された手造りの行灯を眺める訪問看護スタッフ。後方には恐竜シリーズの作品「足」。



足湯場。スタッフも患者さんも一緒にくつろぐ。天井には、メンバーの制作した版画作品を活用した行灯。足湯に浸かりながらコーヒーや柚湯を飲む。メンバーによるフォークギターの生演奏がBGMに。



ロの字にデザインされた足湯の中は玉石が敷かれ、温度調整されたお湯が循環している。



足湯会場から見上げるアトリエホロスの外観。





オープンホロスに向けて準備。毎年のイベントでメンバーやスタッフが当日着るパッチワークの手作り法被を天日干し。



オープンホロスの看板制作中。文字表記を各々がデザイン。



足湯に浸かるメンバーやスタッフに見守られながら最終日に向けたライブのリハーサル。



オープンホロスの看板制作中。慣れないラミネーターの操作。イベントの為なら頑張れる。



ちょっと休憩中。



入院患者さんやスタッフに来てもらえる様に看板の案内の準備。看板を華やかに彩るメンバーのイラスト。最終チェック中。



和室では各自の作品を展示中。





案内看板の制作。スタッフとメンバーとが意見を交わしながら、デザインを決めていく。



看板制作の話し合い中。入院している患者さんにも解りやすい様に、日時表記について工夫しながら。



アトリエホロスの中庭のテラスから望む太子町の山々をバックにメンバーによるライブのリハーサル。



ライブの打ち合わせ。バンドメンバーが揃うのはこの日のみ。直前まで練習を重ねる。手前にはメンバーによって作成されたオリジナルキャラクター「鳥」の木のオブジェ



裁縫が得意なスタッフの手作りガーラント。隙間時間でコツコツ制作。細かな演出が会場の雰囲気彩る。



最終日に向けて音の確認中。その様子を見守るホロスメンバー。ギターの演奏は訪問看護のスタッフ。





自身のパステル画(山シリーズ)を、職員に解説案内。日頃のホロスでの活動を紹介する。



この日は雪が舞う寒い日だったが、新型コロナウイルス感染対策を兼ね、消毒とマスクを促しながら、屋外で来場者を迎えた。手造りの法被を着て入場案内をするメンバー等。



薬局スタッフや看護師等も見学する中、塗り絵ワークショップ。作品に囲まれて行っ塗り絵は、いつもとひと味違う？！



にぎわう室内会場。塗り絵のワークショップに参加したり、イラストを描いたり。その場で思いついたことをメンバーが実践していく。



塗り絵ワークショップ。制作に慣れている二人が来場者(入院者、職員)を先導して行った。塗り絵の原画はホロスで作成されたオリジナルのゴム版画作品。



足湯会場では、お茶のサービス。何日も前からこの日の為に準備してきた。人気ナンバー1は、手作りゆず茶。その他、コーヒーやオレンジジュース、煎りクルミを用意。息の合った接客。





アミーゴ牧場のスタッフ(精神保健福祉士)による初参加フォークギターの演奏。



4日間に渡るオープンホロス最終日のトリを飾る3ピースバンド「Forest」。ドラムはアミーゴ牧場の社会保健福祉士スタッフ。3人揃うのは昨年のアートフェスタ以来。このライブをいつも楽しみにしている職員、メンバー一同。コロナ禍で我慢続きの日々に、はじけるひと時を与えてくれた。



メンバーが彫り貯めているゴム版画の原版作品。テーブルの上に積み上げられ、来場者が作品の束を自由に手に取り閲覧出来る。



左は例年院内に咲く、春の梅の絵を版画で彫ったもの。ゴム版画の原版をインクで刷った作品を着彩。



皆でコツコツ描き貯めた絵はがき作品を展示。折々の季節の花の絵に、その時々気持ちや言葉を添えて。



絵はがきシリーズの下には空き瓶のオブジェのシリーズが並ぶ。





空き瓶に絵の具で染めた和紙をコラージュし小物入れを制作。厚く重ね張りされた作品に触れると和紙の手触りが解る。



手造りの法被を着て公開制作を行うメンバー。上部には木炭で描いた似顔絵作品の展示。



1人のメンバーが画用紙に描いた何百枚に及ぶ近年の作品群を小冊子にまとめ、世界に1つだけの絵本を展示する。



アトリエホロスで過ごす日々の思いを綴った絵手紙や、小冊子、絵の平サイズの絵巻物の展示。(同一作家)



普段はアトリエとして制作の材料や工具類が目立つホロスもこの日はギャラリーの様な展示空間に。



細かい塗り絵の原画も、メンバーによるオリジナルのイラスト作品。



ステンドグラスの技法を発展させた折り鶴とカモメの作品。胸元に吊るされた紐を引っ張ると蝶番で繋がる両翼が羽ばたく構造になり、光が当たるとキラキラと反射する。



基本的なステンドグラスの技法を覚え、独自のアイデアでアクセサリや小さなオブジェを作成するメンバーも。



繰り返されるとあるメンバーのルーティンワークシリーズ(カラージュ+ドローイング+カット)。額装すると独特の味わいに。